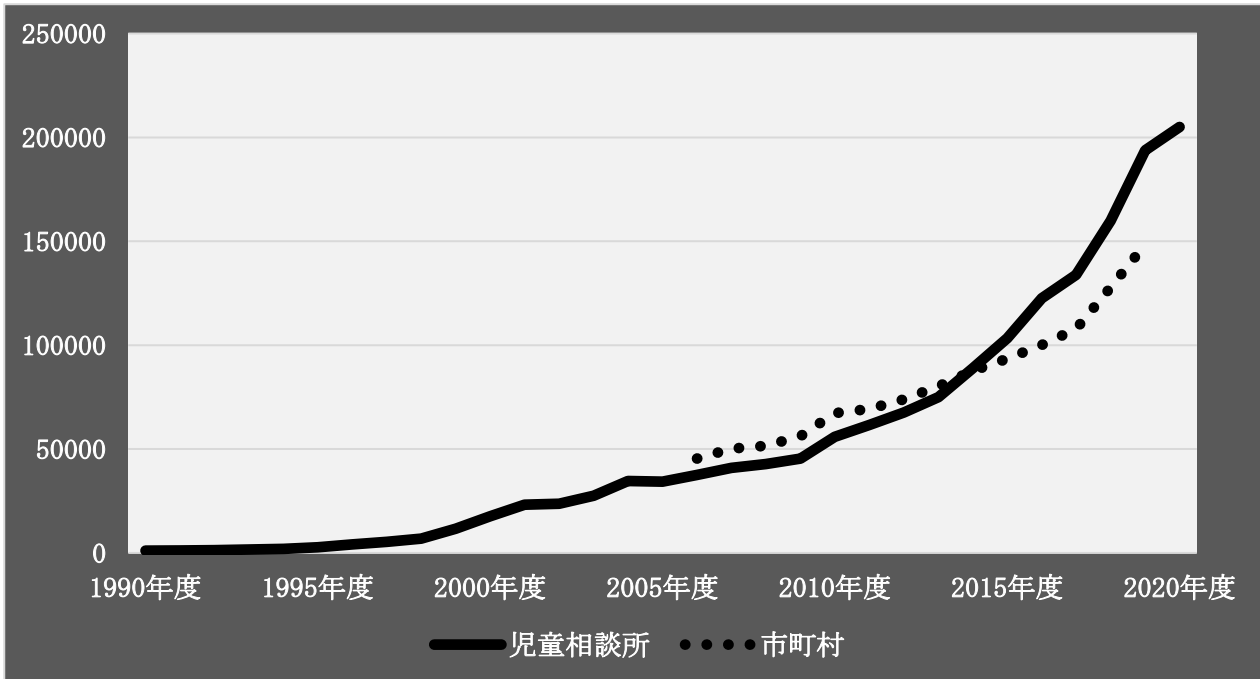
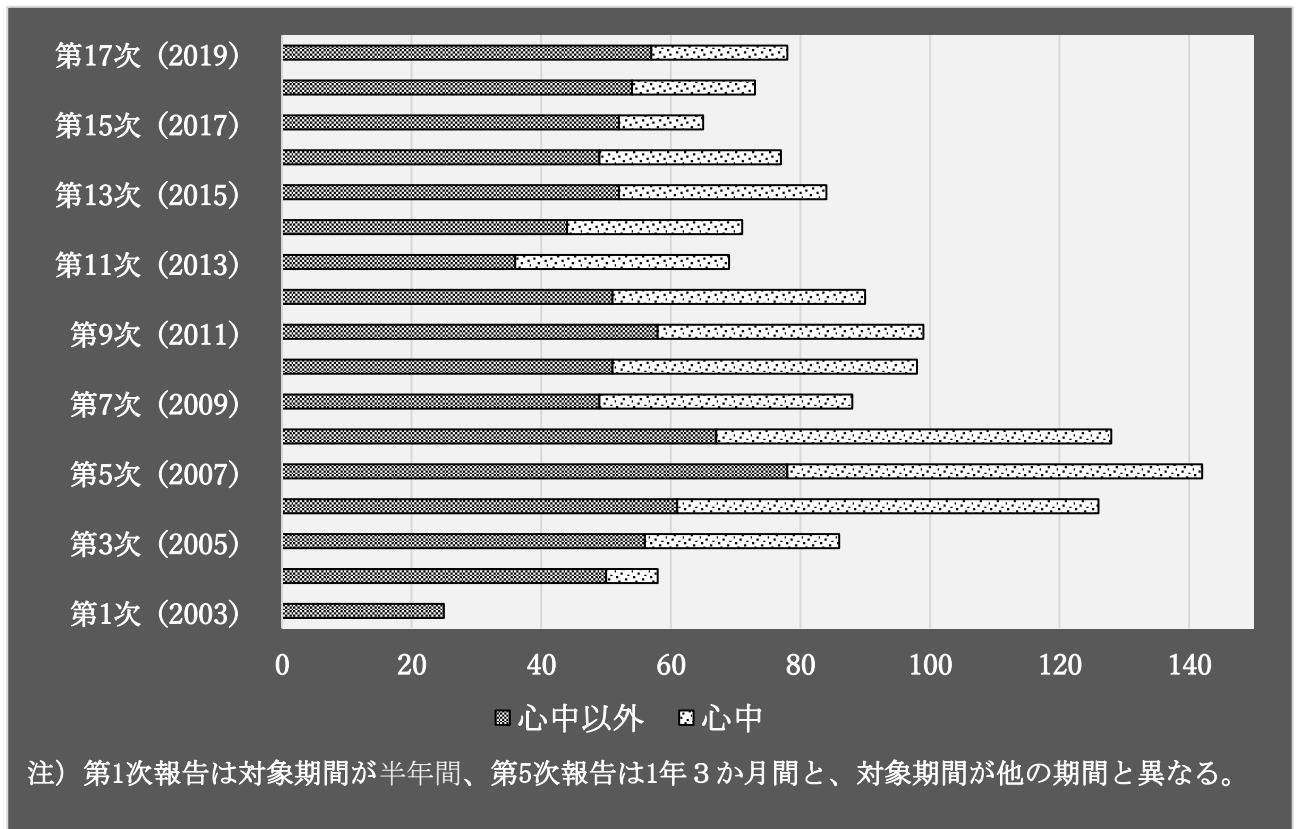


1. 子ども虐待の状況

1) 虐待相談件数



2) 虐待死亡件数



2. 虐待や体罰はなぜ発生するのか

1) 虐待発生構造：世代間連鎖という視点を捨てる



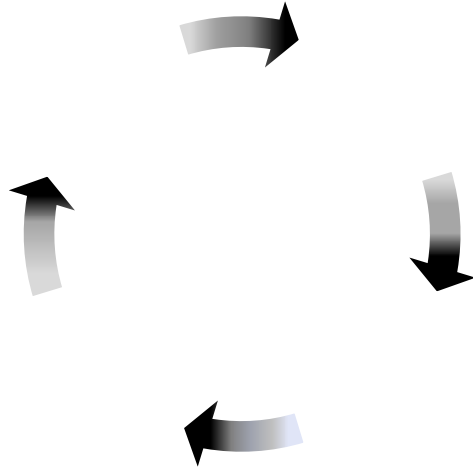
2) 子ども虐待の発生要因

子どもの要因	
親（家庭）の要因	
親子関係の要因	
社会の要因	

3) 虐待・体罰・しつけ

3. 予防という視点

1) 予防の4段階と循環



2) 地域が関わることができる予防

予防の局面	地域が関わることができること		
	都道府県 (児相)	市町村	住民
発生の予防 (第1次予防)			
早期発見 ・早期対応 (第2次予防)			
重度化・深刻化の予防 回復的支援 (第3次予防)			
再発の予防・ アフターケア (第4次予防)			

4. 保育所等に求められる役割

保育所や認定こども園は、日中だけでも保護者が少なくとも直接的な子育てから解放される時間を提供できる、日常的に子どもの状況を把握でき虐待を発見しやすい、などの強みをもっています。また、児童相談所などに比べると、敷居が低いという特性もあります。これらのことを活かした役割が期待されます。

しかしながら、虐待支援の専門機関ではありません。虐待等の懸念がある場合、自分たちだけで判断するのではなく、できるだけ早く市町村や児童相談所に連絡し、保育所や認定こども園がどのように関わるべきかを一緒に考えることが重要です。

5. 虐待対応の基本

1) チームとして対応する

①虐待対応の基本はチーム

②一人で抱え込まず周囲に相談する

2) 責任ある対応をとる

①自分の感情や思いにのみ任せた対応はしない

②すべての保育者が一貫した対応をとる

3) 自分を知る

①保育者自身の体験や価値観に基づく思考のくせや苦手を知る

②スーパービジョンの重要性

4) 信頼関係を築く

①傾聴・受容の姿勢

5) 情報共有と秘密の保持

①記録の重要性

②情報共有

③秘密の保持

6) 保護者にかかわる際の基本姿勢

- ・ 保護者の気持ちや困り感を知って理解しようとする
- ・ 否定的なかかわりは避け、保護者の行動を認め、自己決定を尊重する
- ・ 保護者の状況や外見等からの先入観や固定観念に基づく判断はしない
- ・ 守秘義務を遵守する
- ・ 保護者の子育て力を信じる
- ・ 現状がスタート地点
- ・ 目指すは依存的自立
- ・ あきらめない姿勢

7) 子どもに向き合う際のポイント

- ・ 子どもに安心感をもたせ関係を築く
- ・ 自尊感情を育てるかかわり方をする
- ・ 子どもとふれあう
- ・ コミュニケーションの取り方を知らせる

6. 子ども虐待の支援で意識しておくべきこと

- ・ 経済的要因はさまざまな問題に影響する
- ・ 社会的孤立はさまざまな問題に影響する
- ・ DV家庭では、子ども虐待も起こりやすい
- ・ 乳幼児期のネグレクトは死につながる
- ・ 大人は自分の非を認めるのが苦手である
- ・ 虐待はさまざまに組み合わさる
- ・ 暴力的であろうが愛着的に見えようが、完全に支配されていると、本当のことをいいにくい
- ・ 他の対応方法がわからず、無意識的に虐待をしている人も少なくない
- ・ 人間には回復力がある
- ・ 人は皆楽しく生きたいと思っているが、楽しさは人によって違う

7. めざすは

